「異色の同期会」開催される

松崎日出男（高13）

「下関でリレーを走った方と会いたい!!」との発言をキッカケに学年を越えた同期会が開催された。

昭和34年から38年にかけてグランドを走り回った陸上競技部ＯＢ・ＯＧの同期会が5月26日～27日に湯沢温泉で開催された。

小山幹事長の開会あいさつのあと、物故者への黙祷、金井元部長の乾杯の発声で宴会は幕を開けた。約50年ぶりの再会ということでつもる話も多く、最初のぎこちなさもたちまち学生時代にタイムスリップし、あちこちで思い出話に華が咲いた。

昭和34年の下関遠征では「板の持参」が命じられた。入賞可能なエース級は特急列車で先に出発し、そうでない者は鈍行の夜行列車で、持参した板を座席シートに渡して寝たこと、列車の待ち時間にはホームに出て屈伸体操をしたこと、帰路には萩市や安芸の宮島を案内してもらったこと等のエピソードが語られた。

校歌と部歌を全員で合唱して宴をしめくくった。二次会は部屋での開催となり、夜のふけるのも忘れて語りあった。

一泊二日の楽しいひとときもまたたく間に過ぎ、3年後を目途に再会することを約束して散会した。

参加者　黒崎道子、江口栄子、高野弘子、金子律子、浅田瀞子、金井満、内山哲夫、渡邊武、小山勝弘、若山忠勝、相澤和夫、滝澤実、松崎日出男

（女性は旧姓、敬称略）

文責　松崎

柏崎郷土物語（3）

岩下正雄（高16）

「縄文の人々」

今から約十万年前、柏崎平野、別山川流域の刈羽平野には海水が侵入していました。よく発達した海岸段丘の上輪、青海川海岸は知られているところですが、内陸の剣野、安田、別山川流域にも海岸段丘があります。海水面の上下によってできるこの地形によって、そこが海水にあらわれていたことがわかります。その後しだいに番神海岸から荒浜海岸にかけて砂丘がのび、内陸に残された海が潟や沼になっていきました。この古砂丘はおよそ五万年前には、ほぼ出来上がりました。この段丘の縁にそって古代の道や住居が出来ていきます。縄文中期の日本の中心は長野、新潟である、という説があります。長野県の勝坂土器と新潟県の火焔型土器が他のそれを圧しているからです。いずれも信濃川流域です。長岡の馬高遺跡と十日町の笹山遺跡出土のものが有名ですが、柏崎の大平梨ノ木、川内、軽井川十三仏塚の遺跡からも火焔型土器は出土しています。縄文時代の土器といえば、文様はすべて縄目で、形は火焔型と思われがちですが、これらは中期の一時期のものです。後期の土器は、新潟県から福島県会津地方を中心にみられる地域色のつよいものです。縄文土器は煮炊きの他、食物を盛る、蓄えるなどの機能がありましたが、使い方の基本はすべて共用ばず、木の器などは現在、私達が使っているほとんどすべての種類がすでにそろっていたといわれています。

八戸市の是川遺跡で出土した注口土器には赤いベンガラで着色した漆が既に基本的な漆加工の技術は、出揃っていたといわれています。一万年にわたり全国をおおい、縄文の人々の暮しを支えていた落葉広葉樹のブナ林は、戦前までは無尽蔵といわれてきました。しかし今では国土の四％にしかすぎません。気候の温暖化が進んだ縄文時代前期から中期にかけて、西日本一帯ではカシ、シイを主体とする照葉樹林帯が広がり、東日本にはブナ、ナラなどの落葉樹林帯が発達しました。縄文中期に遺跡の数が急に増加するのはブナ、ナラの森がつくり出すクリ、ドングリ類の食料が安定的に得られたからです。青森県の三内丸山遺跡の周辺は栗の林でした。

縄文の人々の最も重要な活動は、食物の獲保、加工、保存でした。四季の変化にともなって、一年の生活カレンダーがありました。春は豊富な魚貝類、山菜類をとり、保存可能なものは、干物、塩付などに加工したと思われます。夏の活動は低調になり、春の蓄えで暮しました。また秋の収穫・狩猟にそなえて用具で、銘名の皿や鉢はなかったようです。私達は縄文時代の人々を、毛皮を着て山野を歩き、獣をとって生活していた未開の人々と思いがちですが、そんなことはありません。土器はいうにおよび今では国土の四％にしかすぎません。気候の温暖化が進んだ縄文時代前期から中期にかけて、西日本一帯ではカシ、シイを主体とする照葉樹林帯が広がり、東日本にはブナ、ナラなどの落葉樹林帯が発達しました。縄文中期に遺跡の数が急に増加するのはブナ、ナラの森がつくり出すクリ、ドングリ類の食料が安定的に得られたからです。青森県の三内丸山遺跡の周辺は栗の林でした。

縄文の人々の最も重要な活動は、食物の獲保、加工、保存でした。四季の変化にともなって、一年の生活カレンダーがありました。春は豊富な魚貝類、山菜類をとり、保存可能なものは、干物、塩付などに加工したと思われます。夏の活動は低調になり、春の蓄えで暮しました。また秋の収穫・狩猟にそなえて用具の手入れ、製作をします。秋は大事な時季です。縄文時代を通じて主食であったクリ・ドングリは熟果期が短いので、共同で採集、アクヌキの作業をしたことでしょう。サケ・マスも獲りました。冬はシカ・イノシシの猟の他は目立った活動はなく、春・秋の収穫物を消費していたでしょう。関東以北の人々の生活を支えてきたブナ林は、当地方には小国町の一部と黒姫山、高柳、松代、大沢、米山麓に見ることができます。

三月末刊行予定

●記念誌委員会より

募金一口以上の方全員に贈呈

発足から一年半、ようやく表紙やグラビアを含むすべての原稿が出そろい、編集作業は詰めの段階まで来ました。

また、印刷・製本などに若干の日数がかかりますが、当初の予定どおり、三月末には刊行の日を迎えることができそうです。

この機会に、ご多忙中、玉稿をお寄せくださった同窓諸兄姉のご高配にお礼を申しあげ、現況報告とさせていただきます。

なお、この記念誌は、記念事業に一口（五千円）以上の寄付をされた方全員に、一冊ずつ贈呈されます。四月上旬にはお手元に届くと思われますので、しばらくお待ち願います。

また、購入のみを希望される方は、柏崎高校内の記念事業事務局あてにお申し込みくだされば、一冊（送料とも）二千円でお送りいたします。

（記念誌委員会代表　根立俊樹）

事務局よりお願い

■会員の「**住所変更・訂正**」「**物故**」の連絡は、
①郵便　②ファックス　③Ｅ・メールでお願いいたします。

■正確を期すため、④電話での連絡はできるだけ避けてください。

■特に、「**物故**」の連絡は、必ず ① ② ③ でお願いいたします。

連絡先

① 郵便宛先	〒945-0065 柏崎市学校町4-1 県立柏崎高等学校 柏中・柏高同窓会 事務局
② ファックス	0257(35)7838
③ Ｅ・メール	dotoh@kzh.biglobe.ne.jp
④ 電　話	0257(35)7839

■**会費の納入**にご協力ください。
「怒涛」の発行・発送をはじめ、同窓会の事業は会員の皆さまの会費によって運営されております。近年、会費納入が減少傾向にあり、このままでは同窓会の運営に支障をきたす恐れがあります。出費多端のおり、まことに恐縮でございますが、活動の円滑な運営のために、今後とも皆さまには格段のご協力をお願い申し上げます。

■**納付書**を同封いたします。
納入は、郵便局・コンビニのどちらでもご利用になれます。今年度すでに会費納入済みの方には、再度の納付書は同封いたしません。今回の納付書送付と、行き違いで納入された場合は、ご容赦ください。

㈱新野屋
新野京一（高22）
柏崎市駅前一―五―十四
ＴＥＬ㉒二三三七

原酒造㈱
原吉隆（高28）
柏崎市新橋五―十二

辯護士
髙橋巽（高15）
事務所 新潟市関新二丁目一番七三号
新潟ダイカンプラザ遊学館九〇八号
〒951-8141
ＴＥＬ〇二五―二三三―七七〇〇
ＦＡＸ〇二五―二三三―七七〇〇

高鳥技術士CSP労働安全コンサルタント事務所
高鳥勉（中41）
〒九四五―〇〇四五
柏崎市橋場町一四―三〇
ＴＥＬ（〇二五七）二四―一四二三
ＦＡＸ（〇二五七）二四―一四二三

新沢歯科医院
新澤秀樹（高22）
柏崎市穂波町二番二号

柏崎日報社
代表取締役
山田明彦（高18）

郷土のたより
越後タイムス
編集発行人　柴野毅実（高22）
ＴＥＬ㉓六三九六　ＦＡＸ㉓六三九五

佐藤塗料株式会社
代表取締役社長　佐藤裕幸（高20）
代表取締役会長　佐藤信義（中39）
柏崎市駅前二丁目一番四三号

辯護士
髙野毅（高30）
事務所 長岡市幸町一丁目一二番一〇号
高野・星野法律事務所
〒940-0084
ＴＥＬ〇二五八―三五―四四四四
ＦＡＸ〇二五八―三五―四四七八

㈱ライブ商事　新車 中古車 販売・整備
代表取締役　品田優（高16）
柏崎市小金町十一番六七号